

おける小児歯科医療の普及啓発に大いに役立ったのではないかと思っております。特に初代吉田穰学会長は学会を組織し、厳しい財政の中で運営をしなければならないという事で、大変にご苦労されたことと思います。そして我々、地方会会員を暖かく見守って頂き感謝の念にたえません。また木村学会長の時は強烈なリーダーシップをもって会員を引っ張ってこられ改革を断行され、地方会の発展に大きく寄与されたと思います。そして本川学会長の時には開業医を主体とした学会への転換が盛んに検討され、現在、開業医としては初の瀬尾学会長となり、開業医が中心となる学会運営形態が整備されることとなり、地方会も新しい時代への一歩を踏み出したのであります。時代は虫歯の洪水を抜け出し、少子高齢化、健康増進の時代へとなり、地方会もさらに変化してゆくものと思います。20周年を期に温故知新という言葉の意味を考えてみたいと思います。

20周年の節目によせて

宮崎市開業 旭 爪 伸二

日本小児歯科学会九州地方会が20周年の節目を迎えたことを心からお祝申し上げます。

実は私どもの医院も今年で開院15年目を迎えますので、大学での研修期間を合わせますと地方会と共に小児歯科学を研鑽して来たような気がいたします。

この間、地方会を通して多くの大学や臨床医の先生方と知り合い、多くの勉強をさせていただきました。それだけでなく、一人の人間として対患者を考える上で役に立つ、さまざまな示唆もいたいたいたと思います。当初、恒例だった野球大会やその後のジュース、駄菓子でのささやかな打ち上げも忘れられない思い出です。私にとって地方会は研修の場であったと同時に、自分の仕事への意欲をかき立ててくれるあたたかい存在でもありました。

九州各県には小児の口腔衛生の遅れた地域がまだまだ多いのですが、私達の住む宮崎県も例外ではありません。その宮崎県で地方会を開催することができたことも深く思い出に残っています。今では学会の中で地域住民を対象とした講演会開催も珍しくはありませんが、当時はまだ少なく、地方会でも初めての試みとして小児科の巷野悟郎先生をお招きしてオープンの講演会を行いました。お子さま連れの母親も多く来られて、泣き声の飛び交う小児歯科学会を見た時、新しい学会の姿を垣間見たような思いがしたものでした。宮崎県はまだまだ発展途上ですので、これからも頑張らねばなりません。

時代の変遷とともに小児を取り巻く環境も大きく変わってきました。小児歯科医として子供のむし歯が減ったことは喜ばしいことですが、成人病の若年化や少子化とともに沸き上がった新たな問題など、心や身体の問題は口腔の問題として真っ先に現れやすいのも事実です。子育て支援としての小児歯科医の役割はこれからも重要であろうと思います。

地域に根付いた学会として、これからも九州地方会が発展されますことを心からお祈り申し上げます。